

* 5インチ、8インチ、3.5インチフロッピーディスク

アーカイブ室新聞 294号に、計算機の入力媒体であった紙テープ、カードについて歴史的遺物として収蔵したという記事を書いた。今回は主にパーソナルコンピューター(PC)に使われた記憶媒体の5インチ、8インチ、3.5インチフロッピーディスクを、これらもすでに使われなくなっているので収蔵品に加えようと思う。3.5インチフロッピーディスクはまだ読めるが、既に今のPCにはFDD(フロッピーディスクドライブ)が搭載されていないのが普通になってしまった。筆者たちがまず使ったのは5インチフロッピーディスクであった。写真1の左のものである。



写真1 左から5インチ、8インチ、3.5インチフロッピーディスク

パソコンで使われたフロッピーディスクの記憶容量は、8インチフロッピーディスク(写真1の中央)では次のようなものがあつた。片面単密度:約243kB、両面単密度:約493kB、両面倍密度:約985kB)。初期には片面単密度、後には両面倍密度が多く利用されたが、1995年頃に生産はほぼ終了してしまつた。

5インチフロッピーディスクの記憶容量は、片面単密度 - 1S:約70kB、片面倍密度 - 1D:約140 - 160kB、両面倍密度 - 2D:約320 - 360kB、両面倍密度倍トラック - 2DD:約640 - 720kB、両面高密度(8インチ2D相当) - 2HD:約1 - 1.2MB。筆者らがよく使つたPCであるNEC PC-8800シリーズは2D(320kB)が一般的で、その後、NEC PC-9801Fで2DD(640kB)が使われた。2001年頃に生産はほぼ終了したようである。

3.5インチフロッピーディスク(写真1の右)の記憶容量は、両面倍密度2D:約320 - 360kB、両面倍密度倍トラック2DD:約640 - 720kB、両面高密度2HD:約985kB/1.23MB/1.44MBであつた。

これらが使われた時代のパソコンの進歩は速く、相互にデータを移動させるためにフロッピーディスクドライブを複数計算機につなげていたことを覚えている。計算機の進歩

は著しく、既に5インチ、8インチフロッピーディスクに保存した文書、データ類は通常の手段では読むことが出来ない。最近が一番いいそれらの保存は紙媒体に限ると思ったりするのである。まだ世の中にはそれらのドライバーは存在しているのだろうが、読めるソフトが動く計算機が我々一般のユーザーには手に入らない。歴史の流れの早いことを実感するばかりである。MTについては稿を改めたい。

参考までに、天文台に残っていた沖電気の概説書の中にあったフロッピーディスクを使う計算機（写真2）の写真があったので載せておく。



写真2 沖電気の計算機 if800 model130

この写真の計算機は、フロッピーディスクドライバー（FDD）、プリンターがついたもので、これ1台で仕事出来るすぐれものであった。FDDは8インチだったと思う。